

ヨハネの福音書 8章 12-20節

わたしは世の光です。

8:12 イエスはまた彼らに語って言われた。「わたしは、世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。」 **8:13** そこでパリサイ人はイエスに言った。「あなたは自分のことを自分で証言しています。だから、あなたの証言は真実ではありません。」

8:14 イエスは答えて、彼らに言われた。「もしこのわたしが自分のことを証言するなら、その証言は真実です。わたしは、わたしがどこから来たか、また、どこへ行くかを知っているからです。しかしあなたがたは、わたしがどこから来たのか、またどこへ行くのか知りません。」 **8:15** あなたがたは肉によってさばきます。わたしはだれをもさばきません。 **8:16** しかし、もしわたしがさばくなら、そのさばきは正しいのです。なぜなら、わたしひとりではなく、わたしとわたしを遣わした方がさばくのだからです。 **8:17** あなたがたの律法にも、ふたりの証言は真実であると書かれています。

8:18 わたしが自分の証人であり、また、わたしを遣わした父が、わたしについてあかしされます。」

8:19 すると、彼らはイエスに言った。「あなたの父はどこにいるのですか。」 イエスは答えられた。「あなたがたは、わたしをも、わたしの父をも知りません。もし、あなたがたがわたしを知っていたなら、わたしの父をも知っていたでしょう。」 **8:20** イエスは宮で教えられたとき、献金箱のある所でこのことを話された。しかし、だれもイエスを捕らえなかった。イエスの時がまだ来ていなかったからである。

はじめに

先週のメッセージで、ヨハネの福音書が書かれた目的と、その特徴の一つについて説明しました。ヨハネ**20:31**「しかし、これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるため、また、あなたがたが信じて、イエスの御名によっていのちを得るためである。」

これが目的だと分かる、その特徴とも言えることとして、多くの奇跡の中から7つだけが選ばれて記録されています。その7つが選ばれた理由は、イエス様が、ご自分が永遠の神の子だと断言している事を証明する為です。たとえば、先週一緒に見た「わたしは命のパンです。」と断言した時は5000人以上の群衆をわずかな食べ物で食べさせた次の日でした。今日は「わたしは世の光です。」と断言されていることについて学びますが、それは次の9章で、生まれ付きの盲人を癒して見えるようにさせた奇跡によって証明されました。

1. イエス様は命の光をくださる (12節)

8:12 「イエスはまた彼らに語って言われた。「わたしは、世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。」

先週も言いましたが、この福音書に出てくる「命」という言葉は永遠の命を意味しています。ですから、これは永遠の命の光を与えて下さることを意味しています。それによって私達の心の目を開いて下さるのです。そしてそれを証明する為に次の9章の盲目の人の癒しの奇跡が記録されました。

イエス様は9章の箇所記録されている生まれ付きの盲人の肉眼を癒しただけではなくて、神様の真実に対して見えるように、心の目も開きました。霊的な意味で、その盲人は私達の事を象徴しています。私達は皆、霊的な意味に於いて盲目の状態です。もちろん、肉眼が癒されるのは凄い事ですが、それよりも、心の目が神様の真実に対して開かれるのが何よりも大切な事です。そして、イエス様を信じるすべての人は、その盲目だった人と同じ証が出来るのです。

ヨハネ9：25「彼は答えた。「あの方が罪人かどうか、私は知りません。ただ一つのことだけ知っています。私は盲目であったのに、今は見えるということです。」
これは素晴らしい証です。指導者達は難しい神学的な事を言って彼の証を否定しようとしたが、出来ませんでした。私達も神学的な事は何も分からなくても、学歴や社会的な地位を何も持っていなくても、小さい子どもでも、イエス様を信じるならこれが言えるようになります。ただ、一つの事だけを知っているのです。イエス様によって心が見えるようになったということです。それによって私達は、100%の確信を持ってイエス様と同じように、自分はどこから来たか、自分はどこに向かっているかを言えるようになります。

ヨハネ8:14「イエスは答えて、彼らに言われた。「もしこのわたしが自分のことを証言するなら、その証言は真実です。わたしは、わたしがどこから来たか、また、どこへ行くかを知っているからです。しかしあなたがたは、わたしがどこから来たのか、またどこへ行くのか知りません。」

イエス様によって心が見え開かれた全ての信者はイエス様がどこから来たか、そして、どこに行っているかを100%の確信で知っていると同時に、自分はどこから来たのか、そして自分はどこに向かっているかを言うことができます。それは、私たちが元々猿だったのではなくて、神様に似せられて造られ、イエス様と一緒に天国に向かっていると言う事です。
今、世界中で一番歌われている讃美歌の歌詞にはその事が歌われています。

Amazing Grace (驚くばかりの恵み) --"I once was lost but now I'm found, was blind but now I see."直訳すると、「私はかつて失われていたが、今、見つけられた。盲目だったが、今見えるようになった。」

残念ながら、日本語訳詞にはこの部分がそのまま訳されていません。

イエス様は全ての人がこの経験を必要としていると教えて下さいました。
ヨハネ3:3「イエスは答えて言われた。「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」3:4 ニコデモは言った。「人は、老年になっていて、どのようにして生まれることができるのですか。もう一度、母の胎にはいつて生まれることができますでしょうか。」

3:5 イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国にはいることができません。」

生まれながらのままでは、私達は神様が実際に存在しているかどうか分からないだけでなく、生まれながらのままでは神様の御国に入れませんが、イエス様は教えて下さっています。ですから、生まれながらのままでは永遠の滅びに行ってしまう状態です。けれども神様は私を愛しておられ、それを望んでおられませんから、この話の続きとして、16節に書いてあるようにイエス様を救い主として遣わして下さいました。

3:16「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」

2. イエス様は光の中を導き続けてくださる

8:12「イエスはまた彼らに語って言われた。「わたしは、世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。」

光の中を歩み続ける為のキーワードは、従う事です。イエス様に従えば従うほど、更なる光を与えられます。それによってもっと深く神様の御心を知るようになると同時に、イエス様の罪と悪に打ち勝った勝利を経験します。

イエス様に従う一番基本的な行動は、おおやけにイエス様が自分の主だと告白する事です。簡単に言い換えれば自分はイエス様の信者だと隠さずに誰の前でもそれを認めることです。洗礼式の目的の一つは、人の前で自分はイエス様の信者だと告白する事です。次の箇所は先週の聖餐式の時にも引用しましたがもう一度見てみましょう。

ローマ人10:9「なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。」

この順番も大切です。神はイエスを死者の中からよみがえらせて下さったと信じる確信を頂く為に、口で先に告白しなければなりません。自分はイエスの信者であると誰の前でも隠さないで告白するのなら、復活の信仰の確信が与えられます。それから、聖書の言葉に一步一方従って行けば、ますますイエス様の復活の力が自分の中で働いて、罪と全ての悪に対して打ち勝つイエス様の勝利を経験するようになります。

黙示録12：11「兄弟たちは、小羊の血と、自分たちのあかしのことばのゆえに彼に打ち勝った。彼らは死に至るまでもいのちを惜しまなかった。」

この箇所の少し前を読むと、悪魔と言う存在がイエス様の救いの力によって負けたと書いてあります。その続きとして11節に、私達がイエス様の勝利を経験する為に二つの事が必要だと書いてあります。それは、神の子羊と呼ばれているイエス様の十字架の血と自分達の証の言葉です。一番簡単な証の言葉は、「私はイエスの信者です」と言うことです。どんな言葉を使うかは自由に考えても構いませんし、人に押し付ける必要もありませんが、これをはっきりしなければ、自分の救いの確信も出来ないし、罪と悪に打ち勝つ勝利も経験出来ません。

マタイ16:18「ではわたしもあなたに言います。あなたはペテロです。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。ハデスの門もそれには打ち勝てません。」

イエス様がこう言ったのは、ペテロがはっきりと告白したすぐ後でした。

16:16「シモン・ペテロが答えて言った。「あなたは、生ける神の御子キリストです。」

私達のイエス様に対する信仰告白によって、神様の全能の力が働いて下さいます。はっきり信仰告白するのなら、全てに打ち勝つ神様の力が、私達一人一人の中で働いて下さって勝利させて下さるのです。

イエス様の与える光と十字架の血による関係についても一つの箇所を心に留めていただきたいと思います。

ヨハネ第一 1:7「しかし、もし神が光の中におられるように、私達も光の中を歩んでいるなら、私達は互いに交わりを保ち、御子イエスの血はすべての罪から私達をきよめます。」

簡単にまとめると神の光に従っているなら、交わりを保ちながら、御子イエスの血が全ての罪から清め続けて下さるということです。ここの「きよめる」という動詞は言語では進行形になっています。イエス様がどのようにして更なる光を与えてくださるかと言いますと、主に聖書を通して与えて下さいます。出来るだけ聖書を読んだり、聖書の話聞く時に示される事が一つでもあればそれを実行したりすれば、交わりがより親しくなると同時に、増々罪と悪に対する勝利を経験することができます。もちろん、完全にはなりませんから、失敗もあります。その為に次のような約束もあります。

1:9「もし、私たちが自分の罪を言い表わすなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私達をきよめてくださいます。」 これも、是非丸暗記をして下さい。

3. イエス様は神様の真理を理解させてくださる。

8:12「イエスはまた彼らに語って言われた。「わたしは、世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。」

この言葉の中に真理を理解する秘訣があります。先週のメッセージの中心聖句は「私は命のパンです私に来る人は決して植える事がなく、私を信じる人はどんな時にも決して渴くことはありません。」でした。今日のイエス様が使っている言葉は「来る」でもなく、「信じる」でもなく、「私に従う人は決してやみの中を歩む事はありません。」とありますから、真理を理解するキーワードは「従う」と言う言葉です。

ヨハネ7:17「だれでも神のみこころを行なおうと願うなら、その人には、この教えが神から出たものか、わたしが自分から語っているのかがわかります。」

聖書を読む時、または聖書の話を書く時に、何の為に読んでいるか、聞いているかがとても大切です。神様の御心を行おうと願う人だけ、神様の真理を理解する光を与えられます。簡単に訳せば、神様の御心に従いたい人だけに神様の真理が分かります。能力や学歴や社会的地位は全く関係ありません。小さい子どもでも、世界一の天才よりも聖書の正しい理解を深く知る事が出来ます。

たとえば、自分の知識を増やしたいだけなのであれば、そんな自己満足の心で聖書を読んでも、神様の真理は理解出来ません。そのような目的で聖書を読んでもすぐ止めてしまう人が少なくありません。教科書のように読むか、小説のように読むかではなくて、「神様、御心を示して下さい」と祈る心を持って読まなければ、理解出来ません。

クリスチャンになってからでも気を付けなければならないのは、自分の先入観を裏付ける為に聖書を読まないようにするという事です。つまり、自分の好きな教理や神学を裏付けたいとか、自分の好きな伝統を裏付けたいから、聖書を読む時にそれに合わせて聖書を解釈してしまわようという事です。気を付けなければ、イエス様がその当時の聖書学者達に言った事と同じ間違いを繰り返す事になります。

マルコ 7:13「こうしてあなたがたは、自分たちが受け継いだ言い伝えによって、神のことばを空文にしています。そして、これと同じようなことを、たくさんしているのです。」

彼らは聖書を自分達の伝統に合うように解釈していました。神様の真理の最大の敵は宗教的な伝統です。世界中の宗教は伝統が一番大切にしていますから、神様の真理よりも大切にしています。どこの国に行っても、国民として何を一番大切にしているかを聞いてみると、答えとして「一番古い伝統」と言われます。それが、私達の文化とアイデンティティと言われるものです。

ですから、クリスチャンになってからでも、聖書を読む時は一番それに気を付けなければなりません。どんな素晴らしい伝統でも、呪いになってしまう可能性があります。当時、イスラエルの国民よりも素晴らしい伝統を持つ国はありませんでしたが、それを守る為に国の指導者はイエス様を殺して呪いとなってしまいました。

ルカ10:21「ちょうどこのとき、イエスは、聖霊によって喜びにあふれて言われた。「天地の主であられる父よ。あなたをほめたたえます。これらのことを、賢い者や知恵のある者には隠して、幼子たちに現わしてくださいました。そうです、父よ。これがみこころにかなったことでした。」

10:23-24「それからイエスは、弟子たちのほうに向いて、ひそかに言われた。「あなたがたのしていることを見る目は幸いです。」

10:24「あなたがたに言いますが、多くの預言者や王たちがあなたがたのしていることを見たいと願ったのに、見られなかったのです。また、あなたがたの聞いていることを聞きたいと願ったのに、聞けなかったのです。」

深い神様の真理が幼子たちに現わされたイエス様は一番喜んでおられました。70人の大人でしたが、子どものようにただイエス様に従っていました。

まとめ

ヤコブ1:17「すべての良い贈り物、また、すべての完全な賜物は上から来るのであって、光を造られた父から下るのです。父には移り変わりや、移り行く影はありません。」

父なる神様は完全な光なので、移り変わりや、移り行く影は全くないように、イエス様も、私は世の光ですと断言しています。100%全てをかけて信頼できます。イエス様によって裏切られる事、失望させられる事は絶対にあり得ませんし、不可能なのです。